

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2374200257
法人名	社会福祉法人仁至会
事業所名	グループホームルミナス大府
訪問調査日	平成 19 年 6 月 20 日
評価確定日	平成 19 年 8 月 21 日
評価機関名	福祉総合研究所株式会社

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2374200257
法人名	社会福祉法人仁至会
事業所名	グループホームルミナス大府
所在地	愛知県大府市半月町三丁目289 (電話)0562-44-8676

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市中種区内山一丁目11番16号		
訪問調査日	平成19年6月20日	評価確定日	8月21日

## 【情報提供票より】(平成19年6月1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤3人, 非常勤6人, 常勤換算7.9人	

### (2)建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建て	1階～階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	100円
	または1日当たり		900円	

### (4)利用者の概要(平成19年6月1日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	7名	
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86.1歳	最低	81歳	最高	93歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	国立長寿医療センター
---------	------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

隣接して同じ法人の経営する介護老人保健施設がある。ホームの玄関には季節の花々が咲いていて家庭的で入りやすい雰囲気である。利用者は共用の場に集まり歌をうたったり、百人一首をしたり、チームワークが取れていて楽しく過ごしている様子である。また、調理や食事の後片付けや洗濯物たたみを利用者が自然に手をだし職員と楽しく行っている。介護計画は利用者の出来る事・できない事や介護支援のポイントが一目で分かるシートが使われていて分り易く、職員はその内容を十分に把握している。なお職員の離職が少なく異動がないため、お互いに安定した関係と、利用者の職員への深い親近感が感じられ、職員は1日1回でも多い利用者の笑顔を願って支援している。又3ヶ月毎の家族懇談会や2ヶ月に1回の運営推進会議からの要望や助言を真摯に受け止め職員間での検討を経てサービスの質の向上に反映させている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価での要改善は市町村との関わりであった。その後、管理者は大府市役所で行われた「愛知健康の森周辺機関文化会」等の交流会に積極的に参加したり、運営推進会議に地域包括センター職員の参加を要請して相談や助言をしてもらっている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し地域包括センターや地域住民・家族・利用者などの代表が出席して利用者のホームでの様子や今取り組んでいる事を報告して、今後の活動内容、その他ホームに対する意見助言などをしてもらっている。それをサービスの質の向上に役立てている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	3ヶ月に1回家族会を開き、意見、不満、苦情を話してもらえよう、信頼関係ができていく。家族からの要望や意見は職員で話し合い改善策を検討してそれを日常生活に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区の小・中学生の福祉体験学習や、勤労体験学習を受け入れたり、地域の夏祭りには利用者と職員と一緒にわらび餅を手作りして販売したり近隣のお寺でビデオ鑑賞をして、交流を深めている。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	介護理念は「利用者中心で無理強いしない・・・」としている。しかし開設時に掲げた理念である為、地域密着型サービスとしての理念として適切であるかどうか管理者や職員は検討中である。	○	地域密着型サービスの意義を管理者や職員で確認して、地域や利用者に基づく理念を会議で検討し作りあげる事を期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現在の理念は、玄関、スタッフルームの出入り口など見易い所に掲示している。管理者と職員は理念に沿う利用者の思いを大切に日々取り組んでいる。又月1回スタッフ会議を開き、意見の統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の小・中学生の福祉体験、勤労体験学習を受け入れたり、地域の夏祭りには利用者と職員がわらび餅を手作りして販売し好評を得ている。又、庵主である利用者のお寺でビデオ鑑賞などをして地域の人達との交流も深めている。	○	今後も、地域の人達との交流をして利用者も職員も地域の一員として共に暮らす事を望んでいる。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は外部評価の意義を理解している。外部評価の結果は、スタッフ会議を開き改善策を話し合いサービスの質の向上に向け取り組んでいる。今回の自己評価は管理者が大まかに作成し、それを基に全職員で話し合い完成している。それにより職員個々の理解を把握し今後の指導にも役立てている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は2ヶ月に1度開いている。地域包括支		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	援センターや地域住民代表、家族代表、利用者代表などに参加してもらい、ホームの行事予定や活動内容、利用者の状態など報告しその他にホームに関する意見や助言をもらっている。それをサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	大府市役所で行われる「愛知健康の森周辺機関文化会」等の交流会に積極的に参加し福祉に関する最新情報を入手できたり他施設の人達と交流を図るなど、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	○	今後も交流や市町村の行事などの参加を積極的にされるように望んでいる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族は10日に1度や月に1度は訪問されている。その時には日常の暮らしぶりを写真やビデオで観てもらい、なお体調の変化や利用者の希望で家族に電話をかけることもある。又3ヶ月に1回は家族懇談会を開き利用者の状態を報告している。2ヶ月に1回ホームの暮らしぶりや行事を載せた「ホーム通信」を、更に3ヶ月に1回法人全体の様子が分かる「ルミナス通信」を発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月に1回の家族懇談会において、意見、要望、苦情を話してもらえる環境はできている。要望や意見は職員間で話し合い改善策を検討し、それを運営に反映している。職員と家族の関係も良好である。	○	今後も今まで同様に、家族の意見、要望を聞きだせる環境作りを継続される事を望んでいる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動、離職は少ない。その為利用者には親近感が生じ、職員との信頼関係もできている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者はグループホーム調査研究委員会に属し毎月の交流会で他事業所の人と情報交換を行っている。月1回のグループホーム協議会等の研修に職員は交代で出席している。又法人内の勉強会、研究発表会などの参加もある。職員の資格取得に向けた支援も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は当事業所から離れた、グループホームや近隣のグループホームとの交流があり、意見交換や情報収集を行っている。それをサービスの質の向上に反映している。	○	今後も他の事業所との交流を図り意見交換や情報収集をされる事を望んでいる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に1週間の体験入居をしてもらいその表情や他の利用者との協調性、食事の状況など全体を通して、安心して生活してもらえるかを検討し、家族から本人にグループホームに入居する事を説明してもらい納得のいく形で入居してもらっている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は、職員や利用者同士が困っていると助け合い、共同生活の大切さを理解している。職員は人生の先輩である利用者から学ぶ事も多く思いや関心を寄せながら一緒に共感し共に支え合う関係を築いている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者が散歩が嫌な時は買い物に行ったり、歩くのが嫌な時は車で行く等、無理強いはず一人ひとりの思いに任せている。又希望や意向の把握に努め個別性を大切にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の出来る事できない事、ケアのポイントが人目で分かるシートがある。職員はそれにより把握できている。又日常生活の中で本人の意向や家族からの情報収集をしてそれを介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月に1度のペースで見直しを行っている。家族懇談会等で意見交換したり、その日その日の生活ぶりを記入した生活記録を家族にみってもらう。状態の変化等の状況に合わせ、必要があれば随時見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算を活かし、利用者の健康管理を行って、利用者の負担となる受診や入院の回避をしている。重度化や終末期の体制も整えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の病院受診を希望される人は家族に付き添いをお願いしている。近隣の開業医の医師に2週間に1度往診に来てもらい、そこで緊急時などの連携はできている		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療との連携体制が整い、重度化や終末期の指針を定め家族の人達に、ホームで出来る事を明確に理解してもらい、本人・家族・主治医と連絡を密にとり最善を尽くすように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居時に個人情報保護の取り扱いは家族に同意を得ている。職員は利用者のペースを尊重しゆっくりとさりげない援助や見守りをしている。トイレ誘導での言葉のかけ方には配慮が見られた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のおおまかな生活パターンは出来ているが、買い物の帰りに寄り道してくるなど、あくまでも本人の希望に寄り添った支援をしている。	○	今後も、あくまでも利用者本位の支援を望んでいる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者と職員が相談しながら決めている。ご飯は軟らかめに炊いたり、義歯の人はおかずを一口大にするなど食べやすい工夫がしてある。食事は職員も一緒にテーブルを囲み楽しく食事が出来る様雰囲気作りも大切にしている。調理・盛り付け・あとかた付けなど自然に役割分担ができています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調の悪い人以外は毎日入浴している。時間帯は利用者の希望の夕方、基本的には一人だが気の合うもの同士の入浴もある。刺激の少ない入浴剤を使用してゆっくりくつろげるような支援をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の庵主さんが中心となり童謡を歌ったり職員と百人一首をするなど、笑いの絶えない時間を過ごしている。ホームでバーベキューを行ったり2~3ヶ月に1回外食を楽しむ事もある。又、畑仕事も楽しみの一つとなっている。	○	今後も今までのような取り組みを続けられるよう期待する。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の買い物は利用者も一緒に行っている。散歩は本人の希望に合わせて、全員で近隣の公園にお弁当を持って出かけ、季節を肌で感じてもらい心身の活性につながるような支援もしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は鍵をかけていない。利用者が外出しそうな様子を察知し、その時は一緒に行ったり、後ろからついて行き、安全面を配慮して見守り支援をするなど、利用者の自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て、非難訓練を行っている。その時には非難経路の確認、消火器の使い方等の訓練も行っている。食糧や水は非難用倉庫に備蓄している。いざという時は掘起こしてもらえよう地域の人に協力をお願いしている。	○	今後も地域の人との協力体制を確立される事を望んでいる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、利用者の食事摂取量を毎日チェックシートに記入し把握している。各人の嗜好を献立に取り入れながら栄養バランスにも配慮している。必要な水分摂取量も概ね把握している。	○	食材は豊富で栄養バランスは配慮されているが、専門的な観点から、市町村の保健師などに定期的にアドバイスをしてもらうような取り組みを期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	バリアフリーで、広い玄関やリビングには季節感を取り入れた飾り付けがなされている。ダイニングは吹き抜けになっていて、明るい日差しが差し込む工夫がなされている。タタミコーナーや所々に腰掛スペースが設けてあり、居心地良く過ごせるような工夫がしてある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室と洋室があり、家具や寝具は個人の物が持ち込まれ、電話を引いたり、仏壇を置いたり等利用者が自分の家の様に安心して居心地良く過ごせるよう配慮している。		